様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３４４１８
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０４８０

研究課題名（和文）通時的視点からのメタファ理論の検証

研究課題名（英文）Verification of metaphorical theories from a diachronic point of view

研究代表者
橋本　功（HASHIMOTO, Isao）

関西外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：１００２２３７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：聖書のメタファを「現代でも通じる／通じない」という意味的基準で分類し、認知意味論における現行のメタファ理論を通時的視点から検証した。その結果、現行の理論はメタファの認知メカニズムは包括的に理論化しつつあるものの、そのメカニズムを発動させ言語表現を生成・解釈する過程は十分に捉えきれているとは言えず、翻訳論との学際的研究により理論を精緻化できると結論付けた。また、現代英語のコミュニケーションでは、聖書由来のメタファ表現が創造的に利用されていることから、その認知メカニズムの探求も追加して検証した。

研究成果の概要（英文）：This research classified the metaphorical expressions in the Bible into two categories on the semantic basis of “comprehensible/incomprehensible to people today” and the validity in the current theory of metaphor is diachronically verified. The conclusion is that the current theory of metaphor is comprehensively theorizing the cognitive mechanisms, but the process where the mechanisms become activated and the expressions are created or interpreted is not fully pursued. Therefore, the interdisciplinary studies of cognitive semantics and translation studies will make the theory more plausible. Furthermore, the metaphorical expressions derived from the Bible are so creatively used in the present-day communication that the studies of the cognitive mechanisms are additionally dealt with.

研究分野：英語学

キーワード：メタファ　聖書　ヘブライ語　英語　翻訳　翻案　認知理論　フィロロジー

１．研究開始当初の背景

古英語期から現代英語期の間に翻訳された英訳聖書のメタファは、そのほとんどは、旧約聖書原典のヘブライ語メタファに遡る。しかしながら、英訳聖書のメタファをヘブライ語メタファおよびラテン語訳聖書におけるメタファと比較・対照しながら体系的に分類し、認知意味論の観点からその構造を総合的に考察する研究は、国の内外を問わず皆無に等しい。それ故、本申請課題の成果は、英訳聖書のメタファ解明に留まらない。古代ヘブライ人と現代人の「百科事典的知識」は、時代・文化・宗教などが異なるため（現代の言語間にみられる各々の独自性よりもはるかに）質的に大きな相違があると推定されるが、それにもかかわらずメタファが理解される仕組みを考究することは、共時的な研究に基づいて構築されてきた現在のメタファ理論の検証、修正、並びに、発展にも大きく貢献するものと思われる。

２．研究の目的

聖書を中心とする英語史上のデータを用い、主として共時的データに基づいて構築されてきた認知意味論的メタファ理論の妥当性を通時的視点から検証することを目的とする。旧約聖書原典の古代ヘブライ語（以下、ヘブライ語）メタファの収集と分析、ラテン語訳聖書におけるヘブライ語メタファの受容と変容の分析、そして、ラテン語訳聖書から間接的に訳出された古英語期・中英語期・近代英語期の英訳聖書とヘブライ語聖書から直接訳出された近代英語期以降の英訳聖書におけるメタファの受容と変容を分析し、最終的には時代・文化・宗教といった「百科事典的知識の質的相違」を越えてメタファが理解されるメカニズムを英語史・認知意味論の観点から総合的に明らかにする。

３．研究の方法

ヘブライ語聖書とその間接訳または直接訳であるラテン語訳聖書、古英語訳聖書、中英語訳聖書、近代英語訳聖書、現代語訳聖書におけるメタファ表現を採集し、これらのメタファ表現を、橋本・八木橋 (2006・2007・2008)、Haiman (1980)、Lakoff and Johnson (1980)、Langacker (1987、1993)、Croft (1993)、Kövecses and Raden (198)、Kövecses (2001、2005、2006)、Semino (2008)等で明らかにされた認知意味論の研究成果を活用して分析し、聖書のメタファ構造を明らかにする。

４．研究成果

研究計画に記したとおり、研究課題遂行に当たっては、フィロロジ分野は研究代表者が担当し、認知意味論分野は研究分担者が担当した。まず、ヘブライ語聖書、ラテン語訳聖書英訳聖書からメタファ表現（主としてメタファとメトニミ）を採取し、分析対象となるデータを整理した。採集したデータは膨大な数に上るが、初年度に設定した分類の基本原則に基づいてヘブライ語、ラテン語、古英語、中英語、近代英語、現代英語別にタグをつけるとともに、意味論の観点から 1)「現代でも通じるメタファ」2)「現代では通じないメタファ」という振り分けも行った。特に 1)に関して、翻訳過程によってメタファに変容が生じている事例については、思弁的にならないよう留意しながら、資料的裏付けをとって考察を進めた。データを分析し、認知意味論における現行のメタファ理論を通時的観点から検証した結果は以下の通りである。

① 「現代でも通じるメタファ」は、主として方向や身体部位に関わる表現が多く、身体性や一般認知能力の観点から構築された現行のメタファ理論で説明しうることを確認した。

②「現代では通じないメタファ」は、主として当時の自然・社会・文化・宗教的背景に基づく表現が多く、メタファの認知的メカニズムを共有しているだけでは理解が及ばないことを確認した。すなわち、いにしえより我々人間は、身体性や一般認知能力に動機づけられたメタファの基本原理を共有しているという点では、現行のメタファ理論に不備は認められないが、通時的なメタファの変容を説明する場合、メタファの認知的メカニズムを作動させる背景知識（ならびにその概念レベルでの捉え方）を考慮しなければいけないということである。

③上記②を理論化する場合、メタファ理論に「(聖書）翻訳論」の知見を導入することが有効であることを確認した。直接訳・間接訳の別を問わず、聖書は神の言葉を記した書であるため、訳者は原典にできるだけ忠実に訳出しようとする一方、翻訳は読み手の理解の範囲に収まるような訳出上の工夫が必須である。現行のメタファ理論は、メタファの認知的メカニズムは包括的に理論化しつつあるものの、そのメカニズムを発動させ言語表現を生み出す／解釈される過程は十分に捉えきれておらず、翻訳論との学際的研究により理論を精緻化できることを確認した。また、現代の英語コミュニケーションにおいて、聖書（主として『欽定訳聖書』）由来のメタファ表現を暗示引用として活用する用例が無数に確認されている。そのため、研究計画を拡張させ、スキーマ・プロトタイプ・拡張事例に基づく聖書由来表現の創造的使用についても考察を行った。その成果は、橋本功・八木橋宏勇訳『聖書起源のイディオム 42 章』（慶應義塾大学出版会　[原典：David Crystal. 2011. *Begat.* Oxford University Press]）の訳者注に記載したほか、八木橋宏勇「ことわざの創造的使用に関する認知的考察」(『杏林大学研究報告 教養部門』第 30 巻)等にて公表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　８　件）

① 橋本功、“Biblical English as a Linguistic Corpus” *JELS* (The English Linguistic Society of Japan)、査読有、32 巻、2014、249-255
② 八木橋宏勇、「結果と過程の認知意味論—語彙的アスペクトを再考する—」.『杏林大学外国語学部紀要』、査読有、25 巻、2013 、357-370.
③ 八木橋宏勇、「ことわざの創造的使用に関する認知的考察」.『杏林大学研究報告教養部門』、査読有、30 巻、2013、111-118
④ 橋本功、"Translations from Different Contexts and English Teaching" *New Horizons in English Language Teaching: Language, Literature and Education*（関西外大国際文化研究所）、査読有、2013、121-130
⑤ 八木橋宏勇、多々良直弘、谷みゆき「英語と日本語に現れる言語と文化の相同性」『言語文化研究』（桜美林論考）、査読有、３巻、2012、61-80
⑥ 八木橋宏勇、「比較広告の日米比較—説得のディスコースと好まれる伝達方略」『杏林大学研究報告教養部門』、査読有、29 巻、2012、137-146.
⑦ 八木橋宏勇、「実践的イディオム学習への認知的アプローチ」.『杏林大学外国語学部紀要』、査読有、24 巻、2012、265-282
⑧ 橋本功、“The Development of Compound Numerals in English Biblical Translations” *Middle and Modern English Corpus Linguistics* (John Benjamin)、査読有、50 巻、2012、49-58

〔学会発表〕（計　１０　件）

① 橋本功、「聖書の翻訳と現代英語」（招待講演）現代英語談話会、2014 年 12 月 7 日、京都大学
② 橋本功、"Biblical English as a Linguistic Corpus"（招待講演）、日本英語学会（国際春季フォーラム）、2014 年 4 月 20 日、同志社大学
③ 八木橋宏勇、「ことわざの定型性と創造性」、日本ことわざ学会、2014 年 3 月 23 日、豊島区東部区民事務所
④ 橋本功、「聖書と英語－その密なる関係について」（招待講演）大阪大谷大学英文学会、2013 年 11 月４日、大阪大谷大学
⑤ 橋本功、「聖書ヘブライ語と聖書の英語」（招待講演）、英語史研究会（第 1 回セミナー）、2013 年 9 月 28 日、兵庫教育大学大阪サテライト
⑥ 八木橋宏勇、「翻訳が成功する時～言葉はいかにして文化の壁を超えるのか～」（招待講演）、杏林大学文化講演会、2012 年 11 月 25 日、羽村市生涯学習センターゆとろぎ
⑦ 八木橋宏勇、「ことわざの暗示引用」、第 24 回ことわざフォーラムシンポジウム、「ことわざと言語学」、2012 年 11 月 10 日、早稲田大学文学部
⑧ 八木橋宏勇、「聖書の引喩と文体的効果」、日本文体論学会第 101 回大会、2012 年 6 月 24 日、日本大学法学部
⑨ 八木橋宏勇、「結果と過程の認知意味論：語彙的アスペクトを再考する」、社会言語科学会第 29 回研究大会ワークショップ『視点研究の深化を目指して：日英対照研究を再考する』、2012 年 3 月 10 日、桜美林大学
⑩ 八木橋宏勇、「翻訳が成功するとき—言葉はいかにして文化の壁を超えるのか」（招待講演）、地球ことば村—世界言語博物館主催．2012 年 1 月 14 日、慶應義塾大学

〔図書〕（計　２　件）

① 橋本功・八木橋宏勇・北村一真・長谷川明香、『メタファに満ちた日常世界』（注釈付き教科書）（G. Lakoff & M. Johnson, *Metaphors We Live By*）2013 年、松柏社
② 橋本功・八木橋宏勇、『聖書起源のイディオム４２章』（注釈付き翻訳書）（D. Crystal, *Begat*）2012 年、慶應義塾大学出版会

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
橋本　功（HASHIMOTO, Isao）

関西外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：10022378

(2)**研究分担者**
八木橋　宏勇（YAGIHASHI, Hirotoshi）
杏林大学・外国語学部・准教授
研究者番号：40453526

(3)**連携研究者**
(　　)

研究者番号：